やまびこだより
No.127

平成25年1月20日発行〈昭和51年12月1日発行〉

# 中学生ボランティア新聞

社会福祉法人 ふれあいネットワーク
長野県社会福祉協議会

特集テーマ

# 思いをつなぎ、まちを育てる

## 桜並木のまわりに思いがつながる物語

辰野町立 辰野中学校 の活動より

それは50年前、一人の中学生の思いから始まった！

桜の手入れは、50年も続く自慢の活動です。

ホタルの里として知られる上伊那郡辰野町。
まちなかにある城前橋から JR 飯田線宮木駅までの町道は美しい桜並木の一本道です。
辰野中学校（辰中）では、50年間にわたって、この桜の美化活動に取り組んできました。
桜並木という地域のシンボルの周りには、地域の人々のいろいろな思いがあります。
みんなの思いが引き継がれ、つながりながら、まちは育っていきます。

### プロローグ

1960年

**辰野町「城前線」桜並木のいわれ**

この道に最初に桜を植えたのは、1960年（昭和35年）に、当時辰野町に住んでいて、国の帰国支援事業で母国の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に帰国することになった、朝鮮半島出身の人たちでした。

このまちを思う北朝鮮の方の気持ちがこもった大切な桜だったんです。

活動を始めた当時の女子生徒 野澤長子さん

### エピソード 1

1962年

**思いを寄せ、二人で始めた草取り**

2年後、桜並木のいわれを知った辰中の一人の女子生徒が、枯れたり、折られたりして弱っている桜に心を痛め、友達と二人で木の下の草取りをすることにしました。

### エピソード 2

1963年

**「辰中生みんなで桜を育てよう」**

卒業時、女子生徒は、桜の木の成長ぶりを心配している朝鮮の人たちの思いを知ってもらい、もっとたくさんの人の手で桜の木を育てていこうと、文集で辰中生に呼びかけました。

桜並木は大きく育って、見事な桜のトンネルに……

### エピソード 3

1964年

**辰中生徒会に緑化委員会が発足**

半分以上が枯れてしまった桜並木を、なんとかしなければいけないと、緑化委員会が発足。当時の校長先生や地元企業の協力を得て、全校生徒で新たに苗木を植樹。100本の立派な桜並木を完成させました。

**桜並木の掃除は辰中の伝統的活動に！**

1965年

翌年には桜の木に花が咲き、朝鮮の新聞でも報道されました。

たつの新聞（昭和40年5月1日付）

### エピソード 4

1970年代

桜並木の掃除は辰中の伝統として続きます。しかし町の整備が行われ、桜並木は見慣れた風景となり、桜並木のいわれも次第に忘れられてしまいました。

**あれから50年、桜の老木化が進んで……**

落ち葉 / 花びらの掃除 / 害虫 / 枝が折れた！

桜はきれいに咲くけれど沿線の人の気持ちは複雑… キケン！

桜の木は毛虫がついたり、落ち葉などの掃除をしたり、手入れが大変です。最近は老木になってきたので、枯れ枝が落ちたりするなど危なくなってきて、町内会では桜並木を切ってしまったほうがいいのではという意見もあったんです。

町内会代表 根橋政一さん

辰中のみなさんが掃除を続けてくれたので、町内会の手入れも助かりましたよ。

### エピソード 5

2010年

**地域の人と一緒に考えました**

老木化した桜並木をめぐって「協働のまちづくりをすすめるボランティア懇談会」が開催され、沿線住民や行政関係者、商工会青年部、国際交流協会、樹木医などが集まり、話し合いをしました。

樹木医さんにも桜のことを教えてもらいました。

会には辰中の生徒会役員、緑化委員、ボランティア委員も出席。いろいろな人と「桜」の話をしました。

**桜並木はまちのみんなのもの**

みんなで協力したらみんなが喜ぶ、桜も喜ぶ！

花が散る春、落ち葉の秋には、通学路でもある沿道の掃除をします。

辰中の後輩のみんな、これからも頼みます！

辰野中学校生徒会役員（2012年度）

副会長 竹村くん / 緑化委員長 小澤さん / 副会長 野澤さん / 生徒会長 國母くん

2012年

### to be continued

苗木を植えた朝鮮の人たち、活動を続けてきた先輩たち、地域のみなさん……いろいろな人の思いを大切にして、私たちはいつまでも美しい桜並木をまちの人たちと一緒に守り育てていきたいと思います。

**「城前のサクラ 長寿化プロジェクト」に参加しよう！**

桜の木の状態を調べてカルテを作りました。

2011年

桜がもっと元気になるようにします。

生徒総会で呼びかけたら200人もの辰中生が集まりました。まちの人たちと一緒に作業をしました。

### エピソード 7

地域の人たちと一緒に幹や枝の苔落とし

地域の人たちと一緒に桜を守る活動をすることで、地域のほかの行事にも声をかけていただけるようになりました。

僕たち中学生ができることは？

立場が違えば見方も違うんだ。

### エピソード 6

話し合いの結果、適正な手入れをすることによって桜の長寿化をはかり、まちのみんなで協力して、桜並木を守っていくことになりました。

---

各校のボランティア・地域活動の紹介

## 上田市・長和町中学校組合立 依田窪南部中学校

私たちの学校では、こんな活動をしています。

# ネパールでみた“Yodakubo”

### N（南部）マークのカバンで通うネパールの学生

ネパールの小学校

南部中のカバンを背負って登校しています。

ネパールの国旗

●ネパールと日本の違い●

| 国　名 | ネパール | 日 本 |
|---|---|---|
| 総人口 | 2,460万人 | 1億2,750万人 |
| 1人当りの国民総所得 | 230ドル | 33,550ドル |
| 乳幼児死亡率（対1,000人） | 66人 | 3人 |
| 妊産婦死亡率（対10,000人） | 740人 | 10人 |
| 15歳以上人口の識字率 | 42% | – |

出典：ユニセフ「世界子ども白書 2004」

私たちの中学校ではボランティア委員会の活動として、2001年からネパールの学校へ通学カバンを送っています。現地へはジャイチ様（公益財団法人日本農業研修場協力団）を通して送っていただいています。箱に詰めて送ると輸送費がかかるため、現地に行く際に手荷物として持って行っていただいています。

私たちのカバンはレカリ・バシファント学校に届きます。ネパールの首都カトマンズの南西、車で3時間半ほどのところで、標高は2,350m。学校が集落から離れたところにあり、通学には遠いところで片道2時間半もかけて歩いて通っている生徒もいるそうです。

筆記用具などの学用品も十分でなく、カバンの替わりに布を使っています。現地の様子を撮影した写真には「N」のマークのカバンが映っていました。私たちにとっては不要になったカバンですが、現地のみなさんが長距離の通学で大切に使ってくれている様子をみると、とても嬉しいです。

同時に私たちは、まだまだ使えるものを捨てていたり、まだ十分使えるのに新しいものを買ったりしていることに気付かされました。今後もこの活動を通して、ネパールの現状を知り、活動の意義を学んでいきたいです。

“Yodakubo”という名前の教室があります

---

各校のボランティア・地域活動の紹介

## 安曇野市立 堀金中学校

# 夏休みのトマト収穫作業

### 伝統行事を受け継いで

炎天下の中での収穫作業

文化祭でのリヤカーの贈呈式

赤くてピカピカ！おいしそうでしょ！

堀金中学校では、様々な福祉活動を行っています。その中でも大きな活動は『トマト収穫作業』です。20年以上前から伝統的に行われている行事で、生徒会役員が中心となって計画し、夏休みに全校生徒が集まってトマトの収穫作業をします。

今年は暑い日が続いたので、トマトがかなり傷んでしまっており、ちゃんと採れるのか不安でした。しかも収穫日当日は太陽がこれでもかと照りつける炎天下。とても暑い中の大変な作業でしたが、みんなで汗を流しながら、お互いを励まし合い、一生懸命トマトを収穫しました。みんなの心配をよそに、トマトが入ったケースは増えていき、ピカピカに光る真っ赤なトマトが大量に採れました。

採ったトマトは加工工場に出荷します。その収益金の一部と、毎週行われているアルミ缶回収の収益金を合わせて、物品を購入し、安曇野市社会福祉協議会堀金支所に寄贈しています。今までに車イスや災害時用の発電機等を贈ってきました。今年は支所の希望により、リヤカーを購入し、文化祭で贈呈式を行いました。リヤカーは、農作業などで活躍しているようです。

これからも、伝統行事として後輩に受け継いでいってほしいと思います。

---

あの震災を忘れないで！

## いわき市立 豊間中学校と笑顔の交流

須坂市立 相森中学校 の取り組み

豊間中から記念の旗、相森中からは双子のモザイクアートを交換。

グループに分かれ、ゲームやトークで楽しい交流時間を過ごしました。

相森中学校では、2011年の大震災で被害を受けた福島県いわき市立豊間中学校に応援ビデオレターを送るなどの交流活動を続けてきました。私たちは「今年もなにかできないか」と考え、先生や PTA の方々の協力で、8月に親善交流使節団を結成して被災地を訪問し、豊間の方々にお会いしてきました。

緊張する私たちを笑顔で温かく迎えてくださった豊間中のみなさんとは楽しく交流ができ、みんなで困難を乗り越えようとしている団結の強さ、心の優しさが伝わってきて、私たちの方が元気をもらった気がします。

震災を忘れないためにも、この交流を通して学んだことをみんなにも伝え、今後どのようなことができるか考えていきたいと思います。

被災地支援のあり方は多様ですが、笑顔や友情を届け、絆を深める交流の有効性を今回強く感じました。「支援する」と言うより、「手をつなぎ、被災地から学ぶ」というスタンスが大事です。お互いの生徒たちがこれからの復興の力となる日が来ることを願ってやみません。（引率の月岡英明先生 談）

**被災現場を視察……ショックでした**

いまだ放置されたままの震災がれき

★ 親善交流使節団に参加した生徒の感想より ★

●現地に行ってみなければ、被害の実態や被災者の思いを本当に肌で感じ、理解することは難しいんだなと学びました。

●みなさん笑顔で迎えてくれたけれど、自分が思っていた以上に悲しい思いを抱えていることが分かりました。

●被災現場は残酷の一言。被害の規模が想像以上に大きすぎて言葉が出なかった。

●豊間の人たちが辛い経験を乗り越えてくることができたのは、仲間との絆があったからだと思いました。

●被災地の人々が今最も怖いのは「忘れられること」だそうです。このつながりを大切に、自分が見て聴いて感じたことを多くの人に伝えていきたい。大震災はまだ終わっていないのです。

---

18歳までの子どもがかける「子ども専用の電話」

**チャイルドライン**

フリーダイヤル 0120-99-7777

困っているとき、悩んでいるとき、なんとなく「だれかに話したい」、そんなとき……気軽にかけてください。

★ちょっといいにくいことでも、名前は言わなくていいので安心して話してください。

★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。

みんなにカードが届くよ。フリーダイヤルでかけてね！

チャイルドラインは皆さんの赤い羽根共同募金が役立てられています。

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう！

どこにあるかわからないひとはこちらまで！

●発行／お問い合わせ●

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会
ふれあいネットワーク
〒380-0928 長野市若里7-1-7　県社会福祉総合センター内
TEL.026-226-1882　FAX.026-228-0130
電子メール　vcenter@nsyakyo.or.jp
ホームページ　http://www.nsyakyo.or.jp

公益社団法人 信濃教育会
〒380-0846 長野市旭町1098　TEL.026-232-6994
ホームページ　http://www.shinkyo.or.jp/

やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDF ファイルとしてダウンロードできます。どうぞご利用ください。
http://www.nsyakyo.or.jp

この新聞の発行には、皆さんの赤い羽根共同募金が役立てられています。